

仙台市文化財調査報告書第318集

# 桜ヶ岡公園遺跡

—第2次調査報告書—

2007年12月

仙台市教育委員会

# 桜ヶ岡公園遺跡

—第2次調査報告書—

2007年12月

仙台市教育委員会

## 序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃から多大なご理解、ご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、桜ヶ岡公園（西公園）は、春のお花見や夏の花火大会をはじめとして、四季折々市民の皆様に親しまれている公園です。しかし、公園内の各施設は老朽化が激しく、また、地下鉄東西線の（仮称）西公園駅が公園の一角に建設されることなどから、公園全体の見直しを図り、より一層皆様に愛される公園を目指して、平成19年度から平成28年度にかけて段階的に再整備を行うこととなりました。

桜ヶ岡公園は、その一部が桜ヶ岡公園遺跡となっています。したがって、平成19年度の西公園再整備事業に先立ち、構造確認調査を行いました。桜ヶ岡公園遺跡は平成18年度に新たに登録された遺跡ですが、今回の発掘調査によって武家屋敷の様子を知るうえで貴重な資料を得ることができました。

先人の残した貴重な文化遺産を保護し、後世に伝えていくことは、現代に生きる私たちの大きな責務であると考えております。仙台市教育委員会では、今後とも、文化財の保護と活用に取り組んでいく所存であります。引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行に際しまして、ご協力くださいました皆様に深く感謝申し上げる次第です。

平成19年12月

仙台市教育委員会  
教育長 荒井 崇

## 例　　言

1. 本書は、西公園再整備事業に伴う埋蔵文化財の確認調査報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会の指導のもとに、株式会社玉川文化財研究所が行った。
3. 本書の作成及び編集は、仙台市教育委員会文化財課廣瀬真理子、株式会社玉川文化財研究所中山 豊が行った。
4. 本書の執筆は、廣瀬真理子の責任のもとに下記の通り行った。

第Ⅰ章第2節	廣瀬真理子・中山 豊
第Ⅰ章第1・3節、第Ⅱ章、第Ⅲ章	中山 豊
5. 調査と報告書作成にあたり、仙台市建設局百年の杜推進部公園課、国際航業株式会社竹内俊之氏、守谷健吾氏、陶磁器類については仙台市教育委員会佐藤 洋氏、『安政補正改革仙府絵図』の使用にあたっては今野印刷株式会社のご協力を賜った。記して感謝の意を表す次第である。
6. 調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物等の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

## 凡　　例

1. 土層注記に記載している土色は、「新版標準土色帖」(小山・竹原 1977)に基づいて認定した。
  2. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行の1:25,000『仙台西北部』の一部を使用している。また、調査区位置図は建設局百年の杜推進部公園課提供の図面を基に作図した。
  3. 調査の際の平面座標基準は、世界測地系平面座標第X系を基にしている。
  4. 本書に使用した遺構挿図縮尺は、調査区配置図1/1,000、トレンチ平面図・断面図1/60である。
  5. 本書に使用した遺物挿図縮尺は1/3・2/3、遺物図版縮尺は1/4（図版5-41～62）・1/3（図版4-1～10・18～30、図版5-31～40）・2/3（図版4-11～17）である。
  6. 遺物の登録は種別ごとに行い、番号の前に以下のような略号を付している。
- F : 軒丸瓦・丸瓦 H : その他の瓦 I : 陶器・土師質土器（ロクロ使用）・瓦質上器 J : 磁器  
N : 金属製品 P : 土製品
7. 本書で使用した遺構略号は以下の通りである。  
SK : 土坑 SD : 溝跡 SX : 性格不明遺構 P : ピット

## 本文目次

### 序 文

### 例　　言・凡　　例

第Ⅰ章 調査の概要	1	第Ⅲ章　まとめ	24
第1節　調査要項	1	写真図版	27
第2節　調査に至る経緯と経過	1	報告書抄録	卷末
第3節　遺跡の概観	2		
第Ⅱ章 調査の成果	4		
第1節　基本層序	4		
第2節　各調査区の遺構と遺物	7		

# 第Ⅰ章 調査の概要

## 第1節 調査要項

- 1 遺跡名称 桜ヶ岡公園遺跡（宮城県遺跡番号01562）  
2 所在地 宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園地内  
3 調査原因 西公園再整備事業に伴う埋蔵文化財の確認調査  
4 調査主体 仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）  
5 調査担当 調査係主任 原河英二  
調査係主事 廣瀬真理子  
調査員 中山 豊（株式会社玉川文化財研究所）  
6 調査期間 平成19年8月20日～平成19年9月27日  
7 調査面積 調査対象面積 270m<sup>2</sup>  
実調査面積 約171m<sup>2</sup>

## 第2節 調査に至る経緯と経過

今回の発掘調査は、宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園地内に計画された西公園再整備事業に伴う事前調査として実施されたものである。仙台市建設局年の杜推進部公園課では平成19年度から平成28年度にかけて、段階的に整備を進めることを予定している。今年度は、櫻岡大神宮北側のグラウンド部を中心に整備を行うこととなり、桜ヶ岡公園遺跡内であることから仙台市教育委員会と協議が持たれた。その結果、今年度は、遺構を保護したうえで整備を進めいくこととし、そのため調査は、遺構面の標高値を確認することを主目的として行うこととなった。

調査は、仙台市教育委員会の指導により、株式会社玉川文化財研究所（所長 戸田哲也）が行った。今年度の整備対象区域のうち、深く掘削する部分を中心に、約171m<sup>2</sup>、計17ヶ所のトレンチを設定して実施した。トレンチの名称は、基本的に西から東に向かって算用数字を付して1～17Tとしている。

調査の経過は、まず重機による表土・擾乱層の掘削・除去を行い、その後人力による掘り下げと精査を実施した。遺構確認が不明瞭な場合には一部を掘り下げて精査したが、確認調査が前提であったことから、遺構・土層の年代や性格をある程度把握した時点までの精査にとどめた。また、本遺跡の土層は整地層を主体とするシルト系の土質であったため、実際の調査にあたっては擾乱層の区別が非常に困難であったこともあり、部分的に明確な基盤層と認定できる層位まで掘り抜いた箇所もある。調査では基準となる層と遺物の検出によって調査区間の土層対比が可能となり、遺跡の基本層序を掴むことができた。

調査は、平成19年8月22日より、グラウンド部の調査区から掘削を開始した。翌日にはすべてのトレンチの掘削作業を終え、1トレンチから東へ順次精査を行った。精査後は各調査区とも写真撮影、平面測量、土層断面実測の各記録を作成した。調査にあたっては、近代以降の擾乱内に近世遺物が混入し、陶磁器類・瓦類に年代差を見出しそういものもあったため、遺物類は極力取り上げることにした。その際、仙台空襲に関する遺物についても2トレンチを中心採集している。現地作業は平成19年9月26日に仙台市教育委員会文化財課、仙台市建設局公園課との現地調査終了立会いを行い、翌27日に現場撤収と重機による埋め戻しを行って完了した。

現地撤収後は報告書刊行に向けて図面、遺物整理を開始した。

### 第3節 遺跡の概観

本遺跡は宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園（西公園）内に所在し、JR東北本線仙台駅の西へ約1.7kmに位置する（第1図）。地形的には仙台城跡の東側を蛇行しながら南方向に流れる広瀬川中流域の左岸にあたり、中町段丘面の西端域に立地する。事業区域は櫻岡大神宮と国道48号線に挟まれた東西に長い約14,000m<sup>2</sup>を測る桜ヶ岡公園の一画である。現況は東側がグラウンド、西側が散策できる広場となっている。

桜ヶ岡公園は明治8年（1875）に開園された。国道48号線以北は戦前に借行社があった区域で、ここが公園の一部となったのは戦後である。グラウンド部には明治27年（1894）に立町から当地へ移転してきた立町小学校があつたが（第2図、写真1：矢印部分）、昭和20年（1945）7月10日の仙台空襲時に焼失した。隣接する櫻岡大神宮も明治5年（1872）に当地へ遷宮された神社で、当時は旧立町小学校西側の北部に鎮座していたが大正15年（1926）に現在地へ遷されている。当初の櫻岡大神宮南側に当たる区域には、明治8年（1875）に仙台城内から移植された臥龍梅（八房梅）が現在もその記念碑とともに健在である（仙台市歴史民俗資料館 2005）。

西側の広場には、明治29年（1896）9～12月の短期間に簡易商業学校跡があつたとする記念碑が建立されているが、この場所は当時も公園として使われており、簡易商業学校は立町小学校内に設置されていたようである（渡邊・佐藤 2006）。その後、昭和3年（1928）に開催された東北産業博覧会では本公園が第二会場となり（渡邊編 2006）、この時建設された朝鮮館は特に注目を浴び、戦災を免れて昭和25年（1950）頃まで保存されていた。また、戦時下の公園は空襲に備えた避難所となり、櫻岡大神宮周辺に大小の防空壕が掘られていたことも証言されている（仙台「市民の手で作る戦災の記録」の会編 1973、同会はか編 1995）。現在でも神社南西側の崖下には、閉塞された6基の防空壕が見られ、今回調査した2・3トレンチからは関連する可能性がある掘り込みを確認している。

近世の桜ヶ岡公園を含む広瀬川に沿った河岸段丘縁辺域は、武家屋敷となっていたことが絵図等で知られている。その中でも今回の調査区域は、幕末まで亘理伊達家（伊達安房・伊達藤五郎）の屋敷地であったと推定される（第3図）。亘理伊達家は仙台藩家臣団の中でも最高位となる一門の家格で、一門中二席に列せられる家臣だった（亘理町史編纂委員会 1990、仙台市史編さん委員会 2001）。二代藩主の忠宗以降、仙台の亘理屋敷では藩主参勤の際に門出の儀式を行うことが恒例となっていた（前掲 1990）。

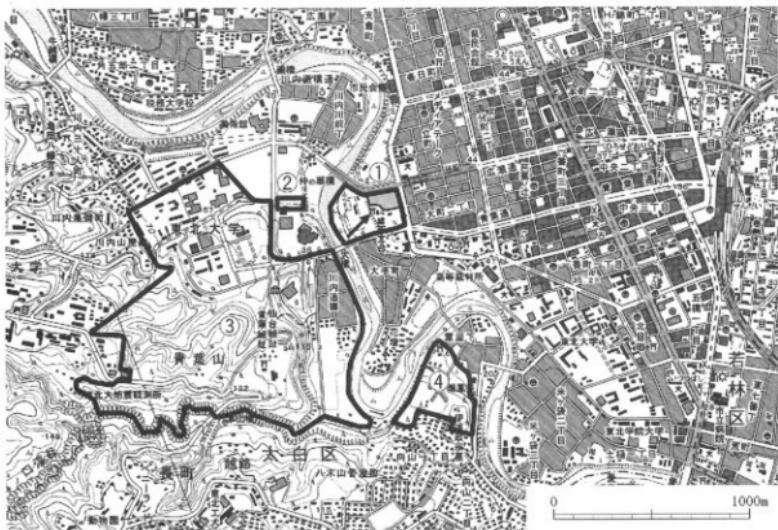
これまで桜ヶ岡公園域は遺跡登録がなされていなかったが、平成16年に高速鉄道東西線建設事業に伴う（仮称）西公園駅の隣接地70m<sup>2</sup>が発掘調査された（斎野・豊谷・北原 2005）。その結果、近世の遺構が出土し調査区周辺に近世の遺構が存在する可能性が示

され、仙台市教育委員会は平成19

年（2007）1月に遺跡登録を行った。この調査地点は本調査区域の南隣にあたり（第5図）、伊達氏の家紋の一つである三ッ引両（亘理町郷土資料館 2002）を瓦当文様に持つ軒丸瓦が出上している。こうした平成16年の調査結果を受け、桜ヶ岡公園内では高速鉄道東西線建設事業に伴う発掘調査が進行中であり、桜ヶ岡公園遺跡の具体的な様相が判明しつつある。



写真1 仙台市街全景<sup>(3)</sup>



①桜ヶ岡公園遺跡 (←今回調査区域) ②川内八遺跡 ③仙台城跡 ④鶴ヶ峯伊達家墓所

第1図 遺跡の位置図



第2図 地番入仙台市全図大正十五年度最新版 (1926)<sup>(1)(2)</sup>  
〔■は今回調査区域〕



第3図 安政補正改革仙府絵図 (1856~9)<sup>(3)(4)</sup>  
〔今調査指定区域〕

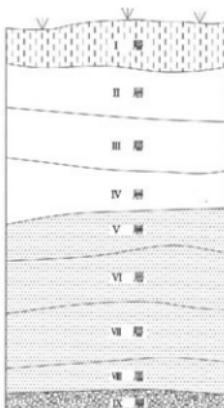
## 第Ⅱ章 調査の成果

### 第1節 基本層序

本遺跡の土層堆積は、総じて近代以降の擾乱が著しく認められる状態であった。各調査区とも狭い範囲であり、近世の出土遺物が少なかったことに加えてシルト質を基本とする土層となっていることから、土層の年代決定は困難であった。しかし、各調査区の表土（I層）直下からは焼土・瓦礫層が確認され、これが昭和20年（1945）7月10日未明の仙台空襲に関連する土層と考えられた。この瓦礫層を基準とすることによって、近代以前の土層を確定する手がかりが得られ、こうしたことからこの瓦礫層を擾乱層としてI層に一括せず、II層として層序区分することで近世遺物が出土する層位の把握が可能となった。ただし、II層は空襲以降の片づけ・整地による二次的な堆積層ともなっているため、現代のコンクリート塊を含む擾乱を覆っている箇所も認められた。

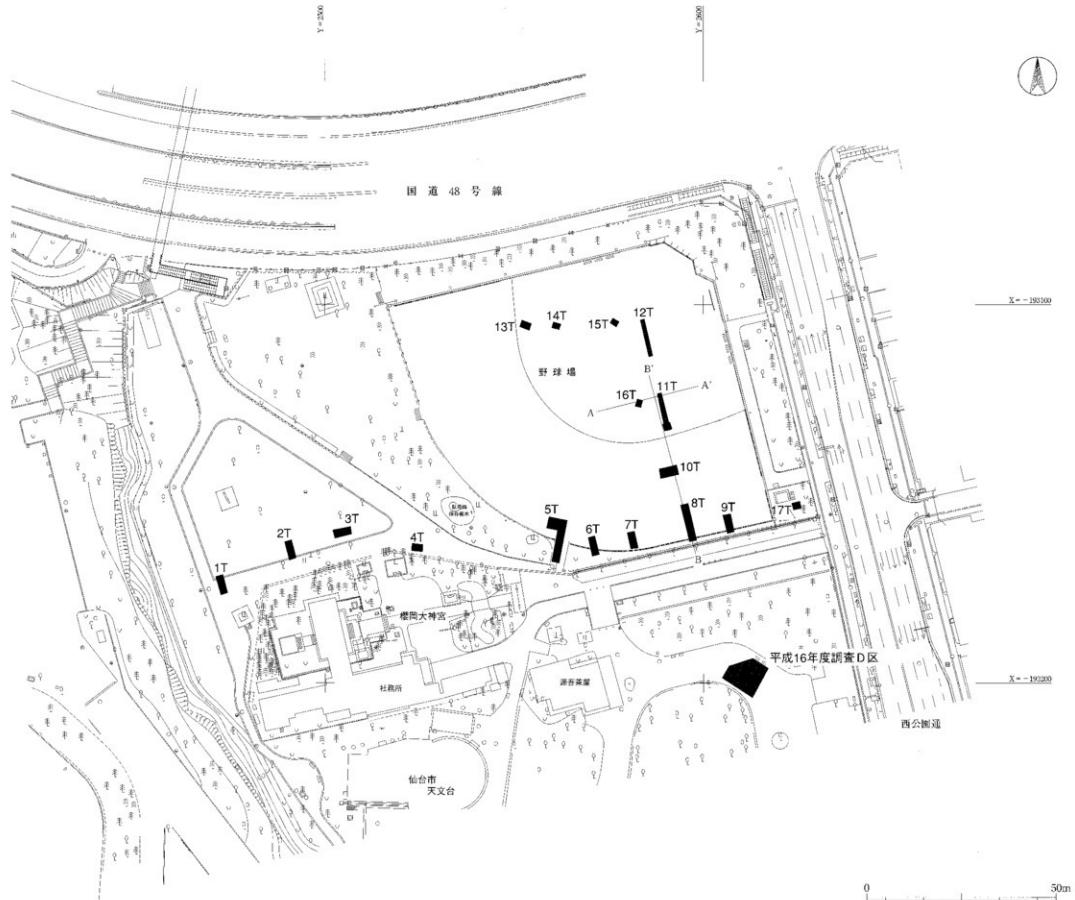
次に、グラウンド部の調査区ではII層直下に旧立町小学校の造成に関係すると考えられた整地砂層が認められ、これをIII層とし、その下の土層をIV層とした。当初、近代層と近世層の区分を明確にすることは困難であったが、このIV層が近世遺物を包含し、近世遺構の検出層でもあることが判明した。また、V層は部分的に深い擾乱を受けているが、擾乱を受けていない部分は比較的浅い位置で検出される（残存している）事も判明した。V層の近世層は削平や整地に伴う土層や大規模な遺構の堆積土と考えられる土層が主体となる。VI層より下位からは、段丘形成に関わると考えられる自然堆積層V～IX層の5層が確認されたが、いずれも無遺物層であった。

このように基本層序としてはI層からIX層が設定されたが、これらの層がすべて堆積する調査区はなかったことから、調査区間の土層比較を行って本遺跡の基本層序を柱状模式図（第4図）にまとめた。なお、II～IV層の細分層については、調査区間対比が極めて困難な状態であったことから、調査区毎の細分としてII～IVに算用数字を付して層名称とし、調査区間で明らかに同一層に対比できる細分層名には○内に算用数字を付した。また、II・III層は近代以降の土層であったが、近世層確認に際して重要となることから層序区分した。こうしたことからII・III層に関連する擾乱層についてもローマ数字に算用数字を付して層名称としている。



- I層 表土層。現表土をa層、グラウンド・公園の整備砂層をb層とした。  
II層 1945年（昭和20年）7月10日未明の仙台空襲に関連すると考えられる瓦礫・焼土層。  
III層 旧立町小学校の造成に関係すると考えられる整地砂層。  
IV層 近世の土層。  
V層 暗褐色粘質シルト。  
VI層 黒色粘質シルト。黒褐色のa層と黒色のb層に细分した。  
VII層 游移層。  
VIII層 黄色シルト。円錐を含まないa層と含むb層に细分した。  
IX層 黄褐色砂礫層。

第4図 基本層序（模式図）



第5図 調査区配置図 (1:1,000)

## 第2節 各調査区の遺構と遺物

まず、遺構・掘り込みの層名に関する説明をしておきたい。1トレントSD1と3トレントSX1は遺構名称を付けたが、調査の過程で近代以降の掘り込みと判明したものである。逆に、近世の掘り込みと判明したものに遺構名称を付さなかったものがある。それは大規模な遺構の中に狭い調査区が設定された可能性や、整地層と遺構堆積土の区別が判然としない等の理由からであり、その場合は層名のみを付けた。また、今回の調査は近世面の検出が目的であり、近代以降の掘り込みは擾乱として一括するべきだったが、前節でも述べたように近世層を把握する上で近代以降のII・III層の把握が重要であったことから、I層に含めずに層序区分した経緯があった。II層直下、III層直下から検出された擾乱に対して「擾乱」としてしまうと、土層断面図上II・III層との切り合い関係において整合性に欠ける表記となり、誤解を生じる恐れがある。こうしたことから、II層以下から確認された近代以降の掘り込みについても層名を付すこととした。

以下、各調査区毎に遺構・遺物について述べるが、上述のように近世面の検出を目的としたことから、IV層の遺存状態やN層までの深度についても述べることとした。また、図面についてはN層以下の層をアミかけして示した。

### 1 トレント (第6図、図版1-4)

5.0×2.0m (10.0m<sup>2</sup>)、N層上面までの深度は42cmを測る。N層は調査区の北半で確認され、遺存状態は良好である。N層直下はK層となっている。なお、調査区の南半は近代以降のSD1によって擾乱されていた。

### 2 トレント (第6図、図版1-5)

5.0×2.0m (10.0m<sup>2</sup>)、N層上面までの深度は53cmを測る。本調査区は全体が近代以降の擾乱となっており、N層は調査区の北端で確認されたに過ぎない。

### 3 トレント (第7図、図版1-6)

5.0×2.0m (10.0m<sup>2</sup>)、N層上面までの深度は28cmを測る。N層は調査区のほぼ全域で確認され、調査区の西端は近代以降のSX1によって擾乱されているが、総じて良好な状態である。SX2・3はサブトレント調査を行い、いずれも浅い落ち込みでSX3(古)→SX2(新)の切り合い関係を確認した。SX2からは近世の中国磁器小片と銅錢各1点がそれぞれ1層、2層から出土している。

### 4 トレント (第7図、図版1-7)

3.0×2.0m (6.0m<sup>2</sup>)、N層上面までの深度は24cmを測る。N層は調査区の全域で確認され、層厚は約20~30cmを測り他の調査区に比べて薄いが、遺存状態は良好である。N層上で検出した調査区東端のSX1で5層から平瓦片1点が出土している。なお、本調査区では南側をN層上面まで掘り下げ、N層以下に良好なV~K層の土層堆積を確認した。

### 5 トレント (第8図、図版1-8)

11.5×2.0m (23.0m<sup>2</sup>)に3.0×3.0m (9.0m<sup>2</sup>)の拡張区を加えた調査区である(計32.0m<sup>2</sup>)。N層上面までの深度は36cmを測る。N層は調査区のほぼ全域で確認され、北東端に著しい擾乱が認められるが、遺存状態は総じて良好である。本調査区の北側をK層上面まで掘り下げた結果、拡張区の南西側でN層以下に良好なV~K層の土層堆積を確認した。なお、擾乱からの出土であったが接合により残存率約1/3となった中国青花皿が出土している。

### 6 トレント (第9図、図版2-1)

5.0×2.0m (10.0m<sup>2</sup>)、N層上面までの深度は12cmを測る。N層は調査区のほぼ全域で確認され、調査区の南端と北側に近代以降の擾乱が認められたが、遺存状態は総じて良好である。本調査区の南側ではN層直下にK層を検出したが、このK層を掘り込んだN層の堆積を確認した。また、北側からは近代以降に掘り込まれた溝状の瓦溜め

(Ⅱ 1～3層) が検出されている。

#### 7 レンチ (第9図、図版2-2)

5.0×2.0m (10.0m<sup>2</sup>)、Ⅳ層上面までの深度は33cmを測る。Ⅳ層は調査区のほぼ全域で確認され、南端と北端に近代の擾乱が認められたが、遺存状態は総じて良好である。

#### 8 レンチ (第10図、図版2-3～5)

10.0×2.0m (20.0m<sup>2</sup>)、Ⅳ層上面までの深度は17cmを測る。Ⅳ層は調査区の全域で確認され、調査区の南端と中央西側に近代以降の擾乱が認められたが、遺存状態は総じて良好である。本レンチからは南側のⅣ3層直下にSD 1が検出され、この遺構の掘り下げを行った。検出部の規模は長さ約3.8m、幅約70cm、深さ125cmを測り、垂直に立ち上がる断面形態を呈する。本遺構の主軸方位 (B-B') はN-14.5°-Wを指す。1層下半から2層には拳大～人頭大弱の円碟が多量に含まれ、土師質土器の皿小片3点が出土した。また、東壁深掘り部のⅣ3層下位からは、土師質土器の水注1点が逆位の状態で出土している(図版2-5)。

#### 9 レンチ (第11図、図版2-6)

5.0×2.0m (10.0m<sup>2</sup>)、Ⅳ層上面までの深度は16cmを測る。Ⅳ層は調査区のほぼ全域で確認され、南半に近代以降の擾乱が認められたが、総じて良好な遺存状態である。

#### 10 レンチ (第11図、図版2-7)

5.0×2.5m (12.5m<sup>2</sup>)、Ⅳ層上面までの深度は29cmを測る。Ⅳ層は調査区の中央より東側で確認され、遺存状態は良好である。調査区の西側には近代以降の擾乱が認められた。

#### 11 レンチ (第12図、図版2-8～図版3-2)

10.0×1.2m (12.0m<sup>2</sup>)、Ⅳ層上面までの深度は37cmを測る。Ⅳ層は調査区のほぼ全域で確認され、南端部に近代以降の擾乱が認められたが、遺存状態は良好である。Ⅳ層上面からは部分的に碟の集中が認められ、比較的大きな円碟が認められた北半を約10cm掘り下げたところ、北から近世の礎石(P1)と柱穴状のプラン(P2)、及び碟集中部が検出され、陶磁器類の破片や銅錢等が出土した。また、これらの東側には重複した遺構状のプランも確認された。

#### 12 レンチ (第12図、図版3-3)

10.0×1.1m (11.0m<sup>2</sup>)、Ⅳ層上面までの深度は30cmを測る。Ⅳ層は調査区の全域で確認され、良好な遺存状態である。中央より北側のⅣ層上面で部分的な碟集中の上端部が認められた。

#### 13 レンチ (第13図、図版3-4)

2.7×1.8m (4.86m<sup>2</sup>)、Ⅳ層上面までの深度は34cmを測る。本調査区は全体が近代以降の擾乱となっており、Ⅳ層は調査区の北端で確認されたに過ぎないが、南壁西側では良好なⅣ～Ⅴ層の土層堆積が認められた。

#### 14 レンチ (第13図、図版3-5)

2.0×1.5m (3.0m<sup>2</sup>)、Ⅳ層上面までの深度は34cmを測る。Ⅳ層は調査区の中央より東側で確認され、南北側と中央、北東端に近代以降の擾乱が認められるが、遺存状態は総じて良好である。東壁南側と北西端のⅣ1層上面からは、P1・2が検出された。出土遺物は無いが、近世の建物跡に関わる遺構と考えられる。

#### 15 レンチ (第13図、図版3-6)

2.0×1.5m (3.0m<sup>2</sup>)、Ⅳ層上面までの深度は38cmを測る。Ⅳ層は調査区のほぼ全域で確認され、北端に近代以降の擾乱が認められるが、遺存状態は良好である。北壁に沿った状態で北西端に向かって延びるプランがⅣ7層上面で確認されたため、その東側を掘り下げたところ、垂直に立ち上がる掘り込みの壁が検出され、陶磁器類の破片や銅錢、金具類、焼碟等が出土した。さらにその東側を掘り下げた結果、黄色粘土質シルトを主体とする整地層と考えられる土層(Ⅴ5層)を確認し、南東端から礎石状の碟集中が検出したところで掘り下げを中止した。

### 16 トレンチ (第13図、図版3-7)

2.0×1.5m (3.0m<sup>2</sup>)、N層上面までの深度は31cmを測る。N層は調査区の全域で確認され、遺存状態は良好である。遺構としては北西端のN1層上面から、礎石跡(P1)を検出した。P1の上位には礎石と考えられる大形礎石が検出されたが、攪乱内の出土であったことから除去した。なお、本遺構はIIトレンチP1と同様に円礎と粗い砂の充填が認められた。

### 17トレンチ（第14図、図版3-8）

2.2×1.9m (4.18m<sup>2</sup>)、N層上面までの深度は21cmを測る。N層は調査区の東側で確認され、木根が著しかったが遺存状態は比較的良好である。西側は著しい擾乱であった。残存するN層を掘り下げたところ、調査区の北側でSK1、東壁II層直下にP1、南壁II層直下にP2・P3を確認した。SK1の掘り込み面は擾乱のため不明だが、桟瓦破片の廃棄坑と考えられる。また、P1～3は櫻が充填された柱穴と考えられる。遺物としては、N8・9層から土師質土器5点、中世陶器片1点が出土している。

### 各トレンチの出土遺物（第1・2表）

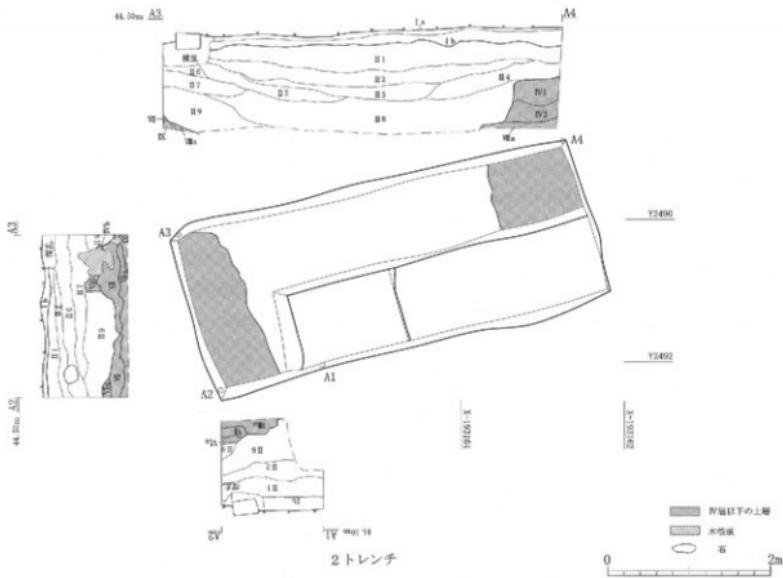
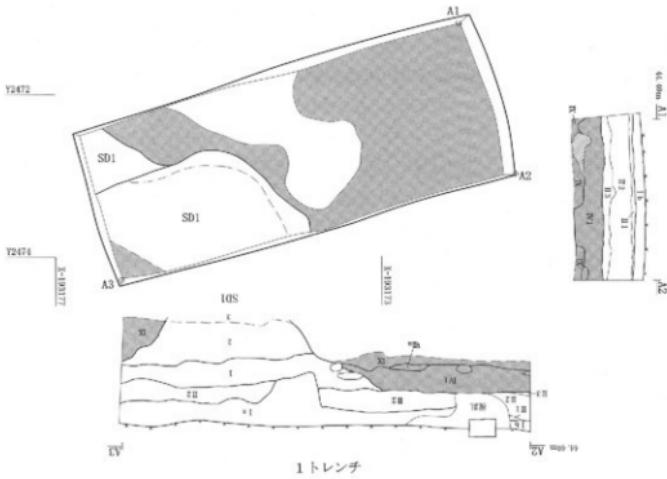
遺物はコンテナにして13箱が出土した。その内容と点数を第1・2表に示し、表に基づいて若干の説明を加える。

第1表はⅡ層を中心とするⅠ～Ⅲ層出土遺物である。明確な近世遺物は除いたが、鉄製品については近世まで通る可能性のある角釘状のものも含めた。主な遺物としては、2トレンチに「」と「馬」の一部と見られる刻印を持つ相馬燒碗2点がある。また、14トレンチの洋瓦には1924年以降の「日本洋瓦」の刻印が認められ、2トレンチの棟瓦には「」の刻印を持つものが1点ある。なお、ガラスは戦災時の高熱によって溶解・変形したと考えられる小片が主体をなし、スレートは大形破片の形状と2ヶ所の穿孔及び加工状態から石盤ではなく瓦と考えた。

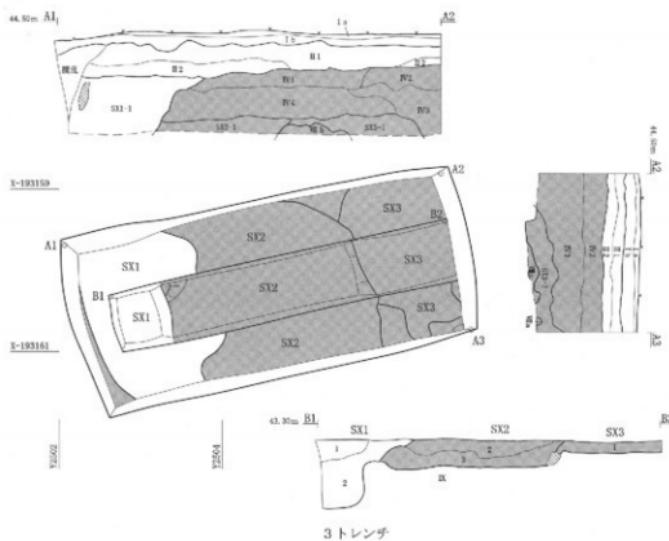
第2表はN層を中心とする出土遺物で、近代との区別が困難な瓦類のすべてと中世陶器1点を含めた。陶磁器類は小片を中心とするが16世紀末～17世紀前半の中国青花皿片を最古とし、19世紀（幕末～明治期）のものまでが出土している。主体は18世紀以降で、調査したN層の年代を示すものと考えられる。製品としては肥前陶磁器を中心として瀬戸・美濃陶磁器が見られ、大堀・小野相馬焼に少数ながら岸系、堤の陶器が加わる（佐藤 2002・2004）。中国製品は明末～清初の青花皿3個体が出土し、他に15トレンチには萩焼の可能性のあるものや13トレンチに西日本系の陶器片1点がある。器種は碗、皿類が中心となる。土師質土器はいずれも明るい黄・橙色を呈する皿の小片を中心とするもので、略完形の水注1点がある。瓦質土器の出土は少なく、土製品としては土鈎2点が11トレンチP2上面から確認された。瓦類は棟瓦を主体とし、微かな布目の付着痕が認められるものを含んでいる。本葺き瓦と判明するものは非常に少ない丸瓦であった。瓦当には江戸式と言われている幕末の特徴を持つものが主体をなし、これに東海式文様が1点確認された。棟瓦の側面に「タ」・「チ」や「左」・「右」の刻印を持つものがそれぞれ1点ずつ見られたが、近代以降の可能性がある。鉄製品は釦を中心とするもので、鋒が著しく器種不明なものも多い。

第1表 トレンチ別近代以降遺物一覧

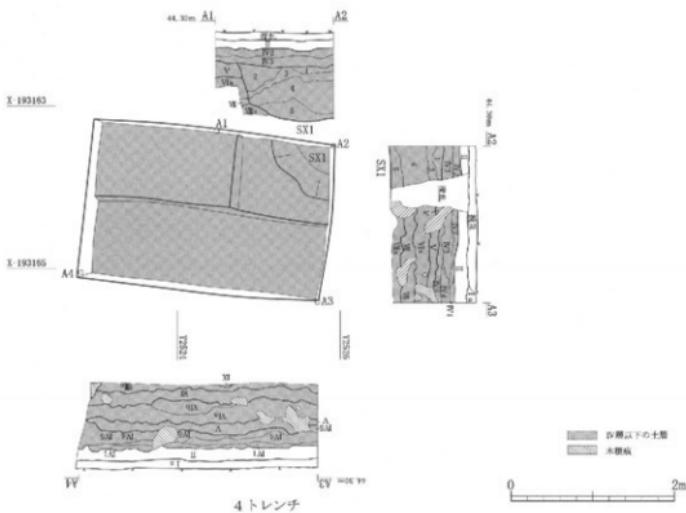
第2表 トレンチ別中・近世遺物一覽



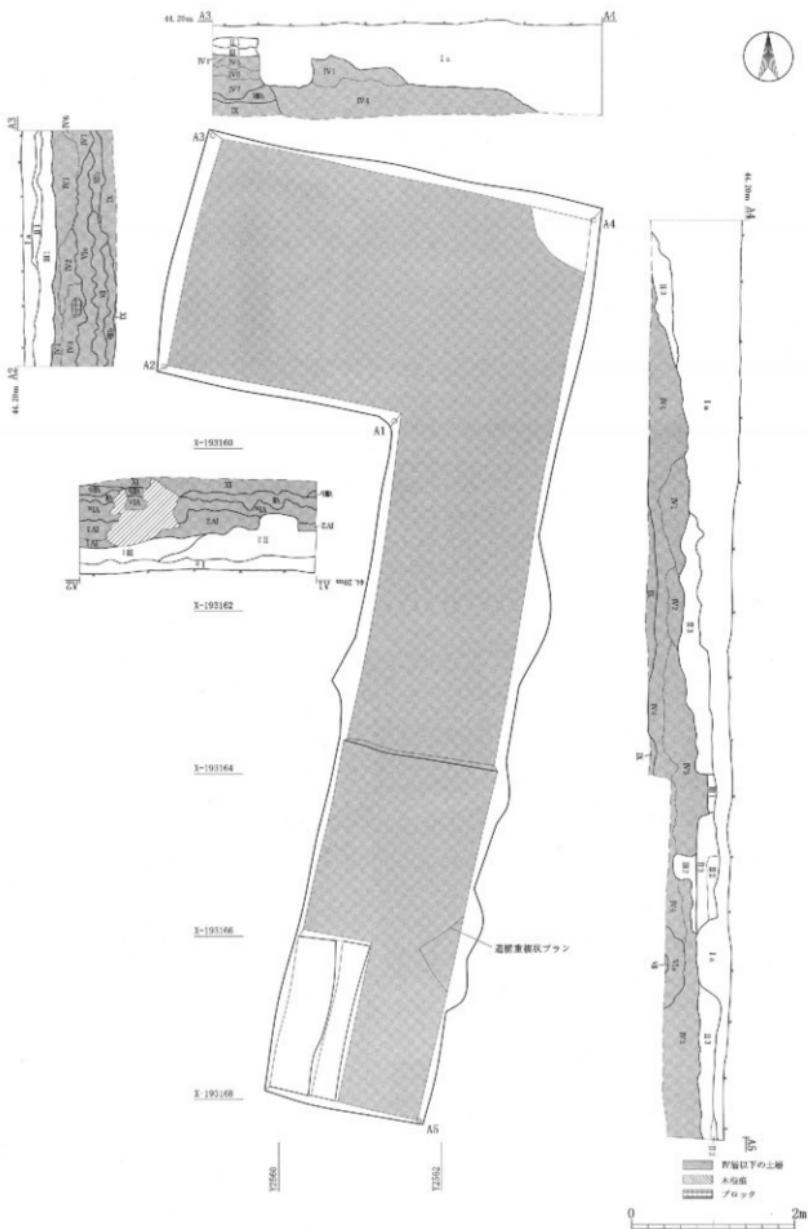
第6図 1・2 トレンチ平面図・断面図



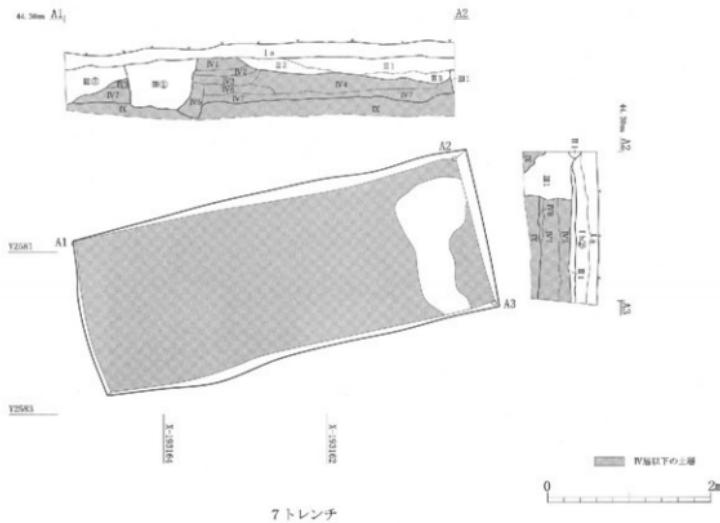
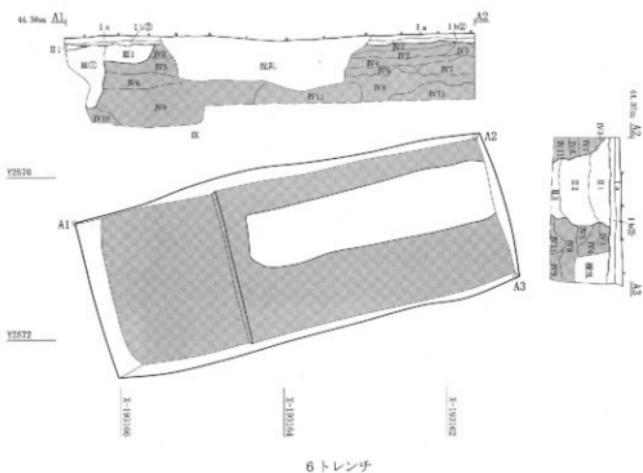
3 レンヂ



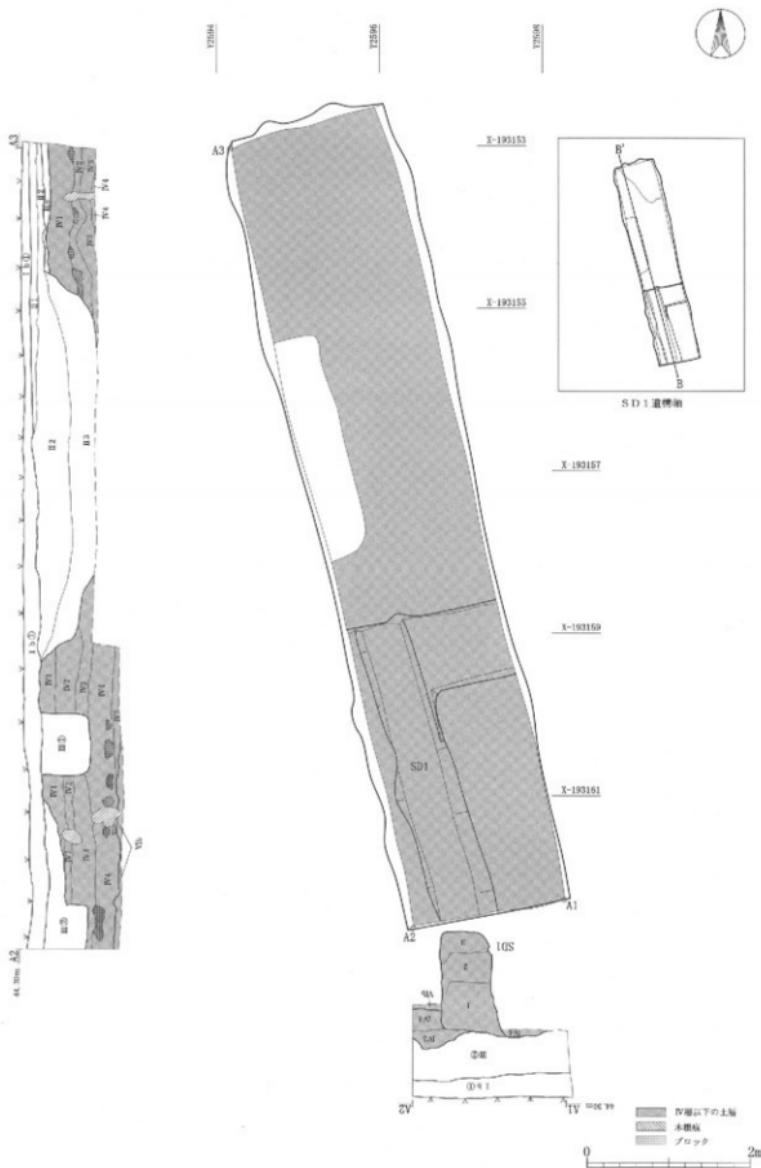
第7図 3・4 レンヂ平面図・断面図



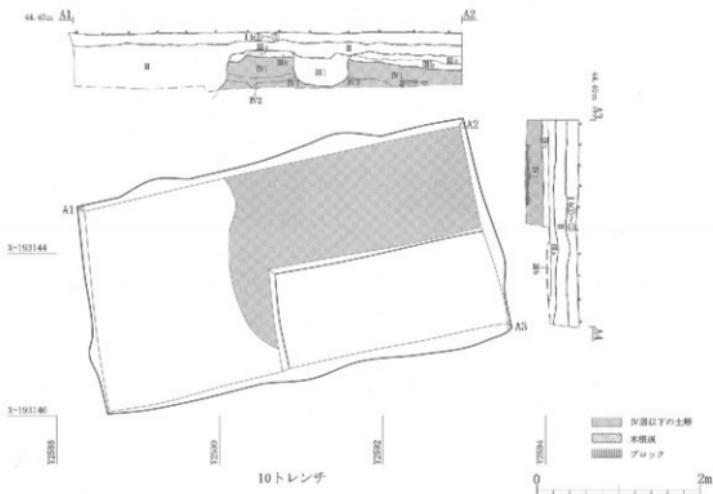
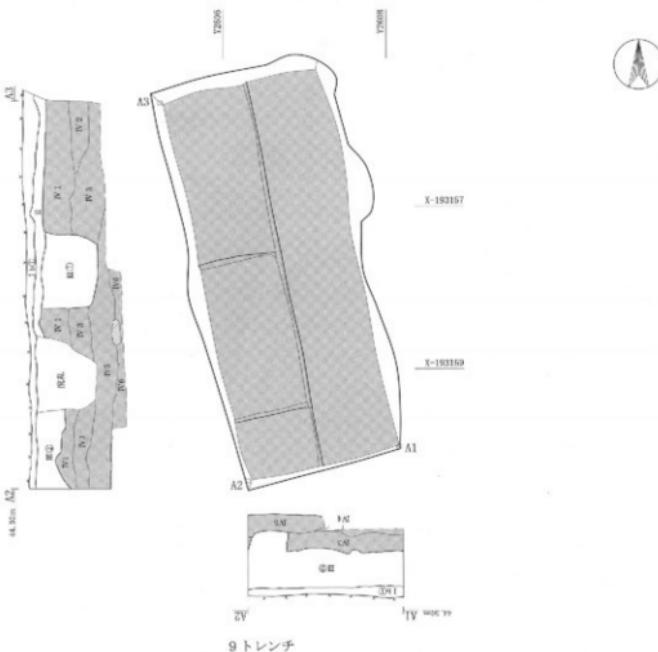
第8図 5トレンチ平面図・断面図



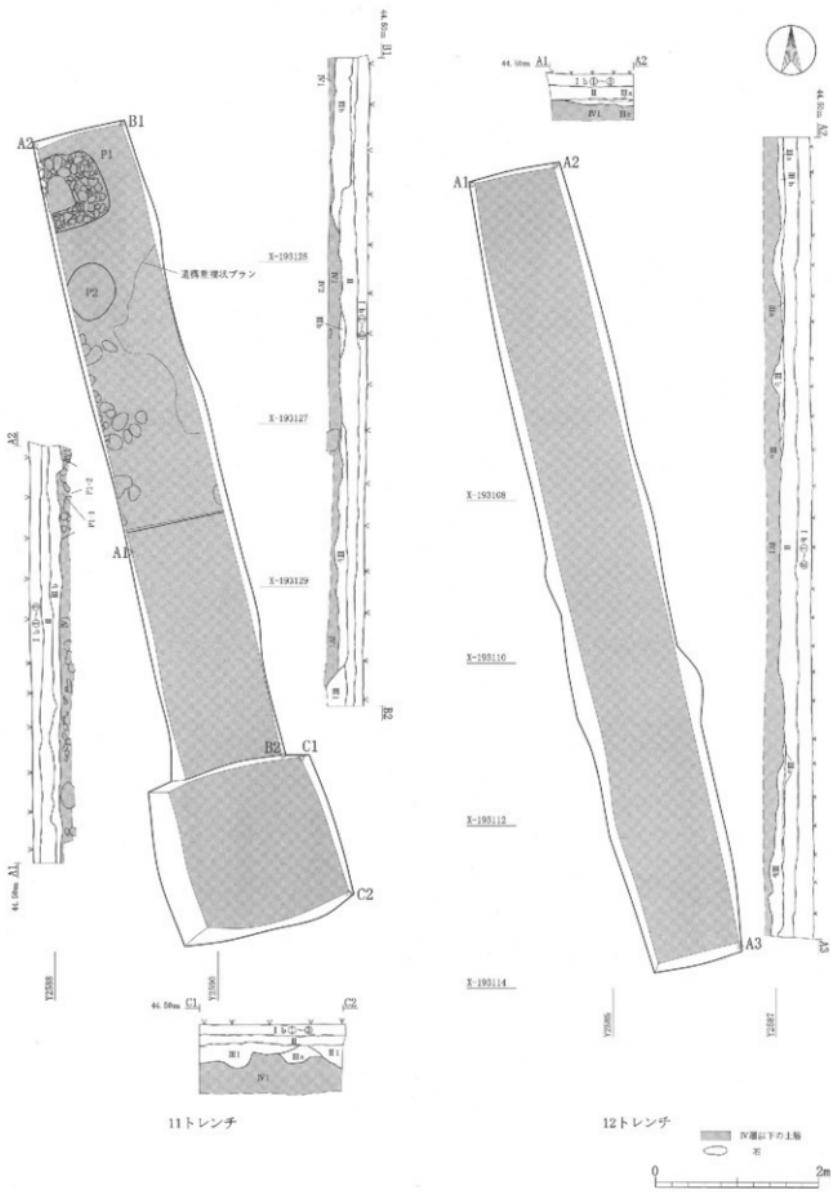
第9図 6・7トレンチ平面図・断面図



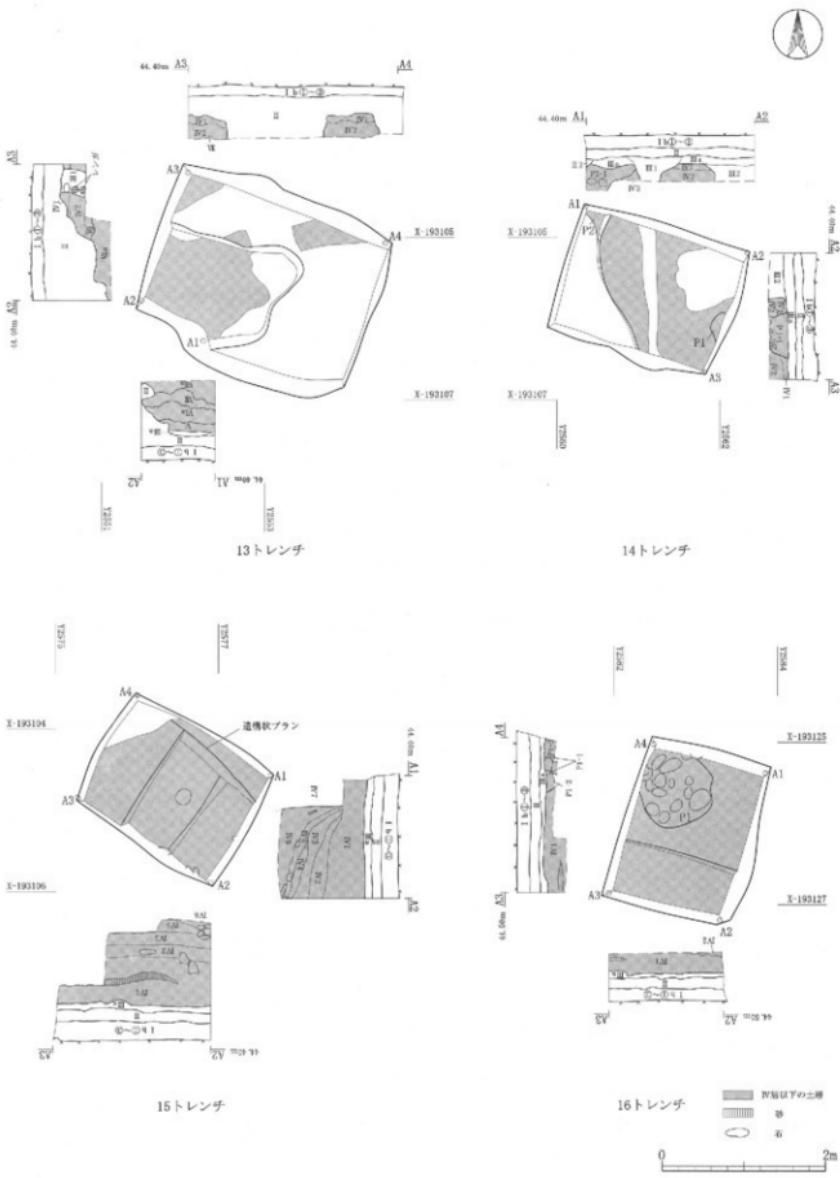
第10図 8 トレンチ平面図・断面図



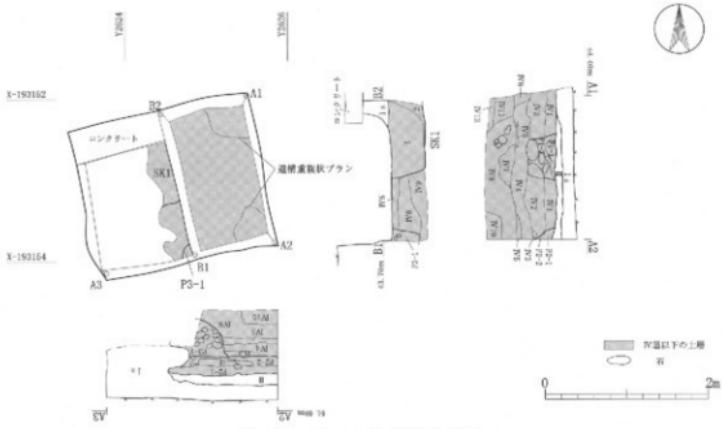
第11図 9・10トレンチ平面図・断面図



第12図 11・12 トレンチ平面図・断面図



第13図 13~16 トレンチ平面図・断面図



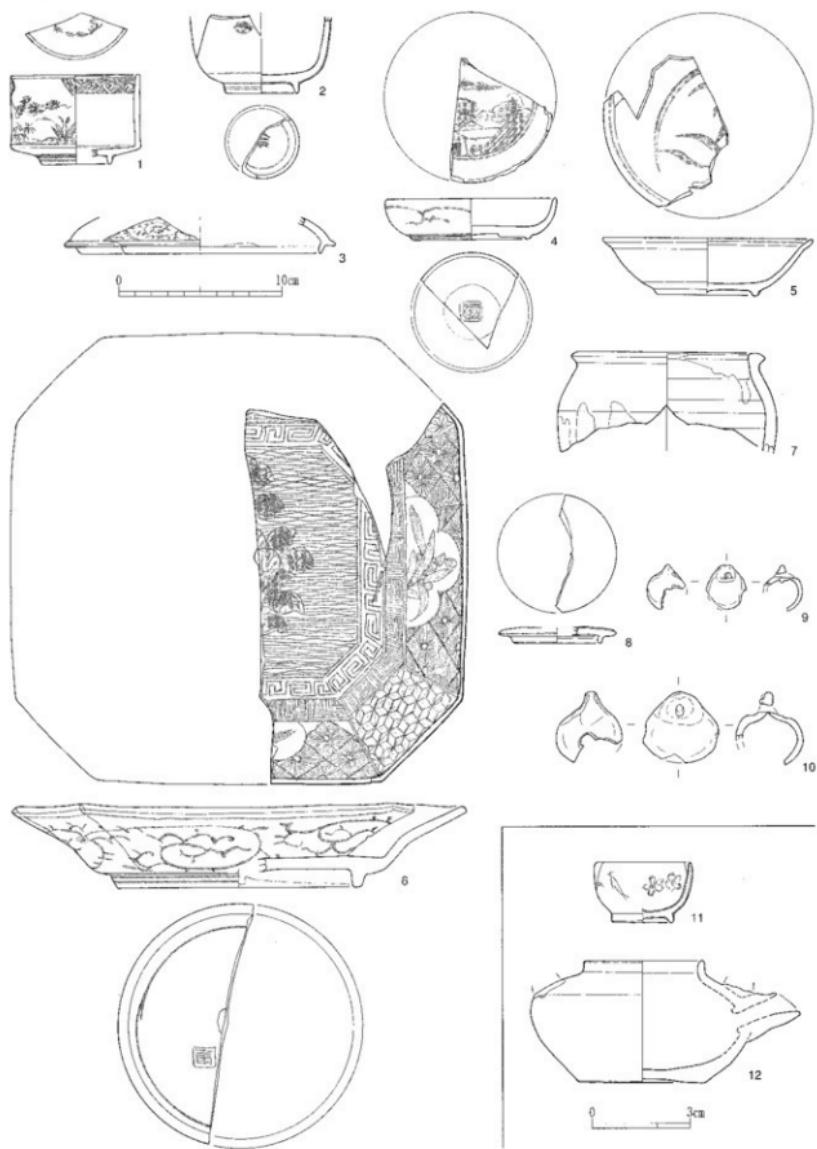
第14図 17 トレンチ平面図・断面図

第3表 トレンチ土層説明（1）

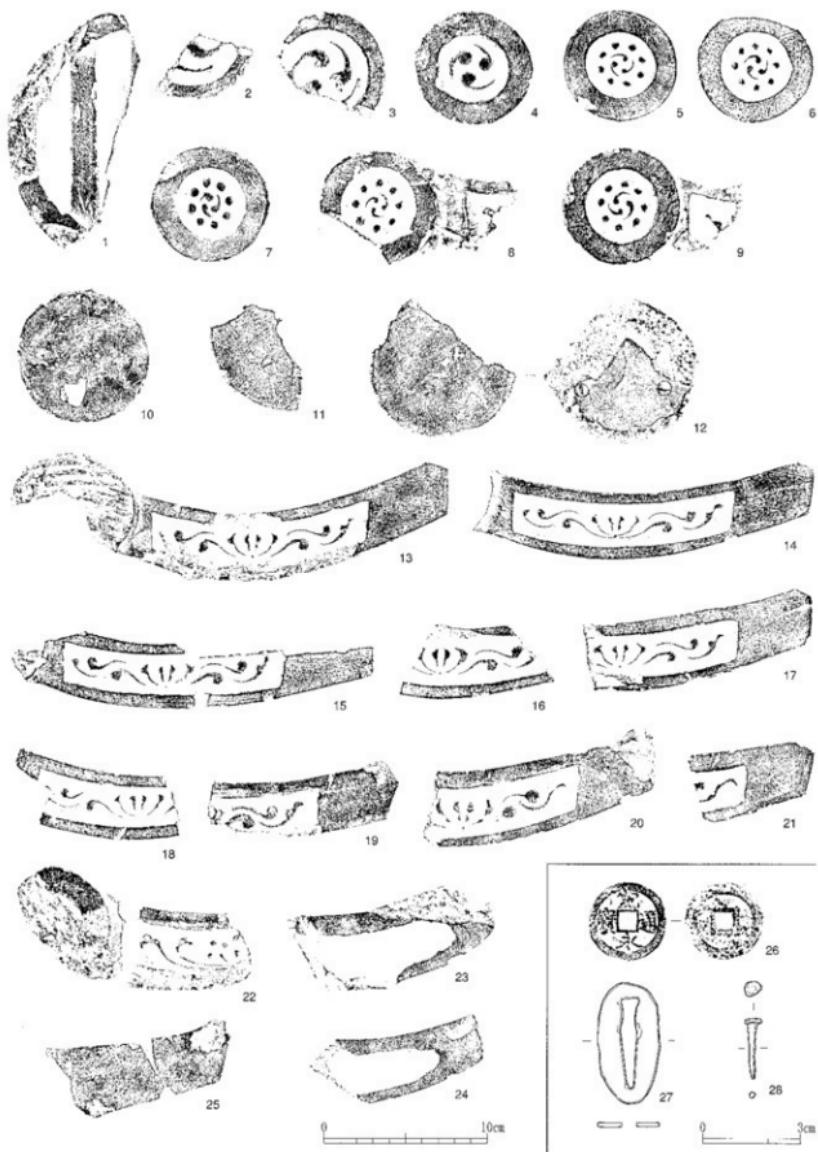
区	層位	土 色	土 性	備 考	区	層位	土 色	土 性	備 考	
I T	I a	HY32-3 黄褐色	粘土質シルト	II 噴出層の原理層。	3 T	2 T	IV	HY35-6 青赤色	砂質	可塑性の弱い土を示し、干すと2-3cmの隙間から漏る。
	I b	HY36-7 灰褐色	砂	25.5%4色共存を有する複数の公園地帯・岩算算。		I a	HY32-1 灰褐色	砂質シルト	風化上層。	
	II	HY32-2 黄褐色	粘土質シルト	7-15cmの土壌層、含水率多量。食有物わざに含む。		I b	25.5%BS-6 青赤色	砂	複数の公園地帯・風化上層。	
	III	HY32-3 黄褐色	砂質シルト	見：7-15cm、風化度：比較的少。食有物わざに含む。		II	HY32-2 黑褐色	粘土質シルト	各含有物はわずかに含む。	
	IV	HY32-3 黄褐色	砂質シルト	見：7-15cm、風化度：比較的少。食有物わざに含む。		III	HY32-2 黄褐色	砂質シルト	各含有物はわずかに含む。	
	V a	HY36-7 灰褐色	砂質シルト	見：7-15cm、風化度：比較的少。食有物わざに含む。		IV	HY32-3 黄褐色	砂質シルト	見：1-4cmの砂質少量化。上層は部分的に細化。	
	VI	HY36-7 灰褐色	シルト	見：7-15cm、風化度：比較的少。食有物わざに含む。		V	HY32-3 黄褐色	砂質シルト	見：0.5-1cmの細粒多量。見葉・葉質・プロテクス量を含む。	
	V b	HY36-7 灰褐色	砂	見：7-15cm、風化度：比較的少。食有物わざに含む。		VI	HY32-4 黄褐色	砂質シルト	見：0.5-1cmの細粒。見葉・葉質・プロテクス量を含む。	
	VII	HY36-7 黑褐色	砂	見：1-30cmの円錐形主体。		VII	HY32-3 黄褐色	砂質粘土	見：1-2cmの砂質少量化。下层半干TDR5%。	
	VIII	HY32-3 黄褐色	砂質シルト	見：1-30cmの円錐形主体。		VIII	HY32-3 黄褐色	砂質粘土	見：1-2cmの砂質少量化。下层半干TDR5%。	
SDH	1	HY32-3 黄褐色	砂質シルト	粘土上部を含まない。		IX	HY32-4 黄褐色	シルト	見：1-2cmの砂質少量化。	
	2	HY32-3 黄褐色	砂	シルトと通じて1-20cmの開拓層。斜面や崩落面。		X	HY32-4 黄褐色	シルト	見：1-2cmの砂質少量化。	
	3	HY32-3 黄褐色	シルト質砂	径：1-20cmの円錐形。		XI	HY32-4 黄褐色	シルト	見：1-2cmの砂質少量化。	
	I a	HY32-4 黄褐色	砂質シルト	現成土層。		XII	HY36-10 黄褐色	砂	見：0.5-1cmの細粒少量化。	
	I b	HY36-10 黄褐色	砂	現代の公園地帯・風化砂層。I T I b層と同じ。		XIII	HY35-13 黑褐色	黄質黒色	見：0.5-1cmの細粒少量化。	
	II	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	I T I b層に隣接する風化度・風化・灰化等多量を含む。		XIV	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：0.5-1cmの細粒少量化。	
	III	HY35-1 黑褐色	シルト	■■■ 塩基源の延び土・整地層。		XV	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-10cmの風化層。HY35-1 黑褐色風化風化風化層。	
	IV	HY32-1 黑褐色	粘土質シルト	見：0.5-1cmの細粒多量を含む。		XVI	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：0.5-1cmの細粒多量を含む。	
	V	HY32-25 黄褐色	粘土質シルト	各含有物わざに含む。		XVII	HY32-3 黑褐色	砂質シルト	見：0.5-1cmの細粒多量を含む。	
	VI	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XVIII	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：0.5-1cmの細粒多量を含む。	
2 T	VI	HY32-25 黄褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XIX	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：0.5-1cmの細粒多量を含む。	
	VII	HY32-25 黄褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XVII	HY32-3 黑褐色	砂質シルト	見：0.5-1cmの細粒多量を含む。	
	VIII	HY32-25 黄褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XVIII	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：0.5-1cmの細粒多量を含む。	
	IX	HY32-25 黄褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XIX	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：0.5-1cmの細粒多量を含む。	
	X	HY32-25 黄褐色	砂質シルト	各含有物多量。		X	HY32-4 黄褐色	砂質シルト	本草書による根糸乱れ・風化上層。	
	XI	HY32-25 黄褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XI	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	各含有物はわずかに含む。	
	XII	HY32-25 黄褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XII	HY35-4 黄褐色	砂質シルト	最大5.5cmの隙間を有する。	
	XIII	HY32-25 黄褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XIII	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-2cmの風化層。見葉・葉質・プロテクス量を含む。	
	XIV	HY32-25 黄褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XIV	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。見葉・葉質・プロテクス量を含む。	
	XV	HY32-25 黄褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XV	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層を有する。	
4 T	XVI	HY32-25 黄褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XVI	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XVII	HY32-25 黄褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XVII	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XVIII	HY32-25 黄褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XVIII	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XIX	HY32-25 黄褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XIX	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	X	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		X	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XI	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XI	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XII	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XII	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
5 T	XIII	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XIII	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XIV	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XIV	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XV	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XV	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XVI	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XVI	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XVII	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XVII	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XVIII	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XVIII	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XIX	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XIX	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
6 T	X	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		X	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XI	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XI	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XII	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XII	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XIII	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XIII	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XIV	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XIV	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XV	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XV	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XVI	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XVI	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
7 T	XVII	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XVII	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XVIII	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XVIII	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XIX	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XIX	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	X	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		X	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XI	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XI	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XII	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XII	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	
	XIII	HY32-2 黑褐色	砂質シルト	各含有物多量。		XIII	HY32-1 黑褐色	砂質シルト	見：1-5cmの風化層。	

第4表 トレンチ土層説明(2)

第5表 トレンチ土層説明（3）



第15図 出土遺物実測図（1）



第16図 出土遺物実測図（2）及び拓影

第6表 潜物鑑察表（カッコ内は復元および残存数値）

種別名	出典番号	トレンジ	遺物・遺材	種別	器種	法長 (cm)	L寸幅	底径	器高	特 装	現地名	年 代	出典番号
酒器	酒器41	8 T	青磁	磁器	斜口平底瓶	(7.8) (4.2)	5.5			内面：西方等(鏡面底質)。外周に竹格型。外側斜一帶・赤銅・瓦片・瓦当・青磁片。	龍前	18c 傷平-19c 初頭	J001
酒器	酒器42	11 T	青磁	磁器	斜口小底瓶	(4.5) (4.75)	9.5			内面：花文？底装：鏡面底。	龍前	18c 傷平-19c 初頭	J002
酒器	酒器43	11 T	青磁	磁器	斜口角底	(10.2) (7.1)	2.5			内面：見え込み円内に山水画風。外周：墨書き。底装：折目扇形。	龍前	18c 傷平-19c 初頭	J003
酒器	酒器44	8 T	青磁	磁器	斜口角底	(10.2) (7.1)	2.5			内面：見え込み円内に山水画風。外周：墨書き。底装：折目扇形。	龍前	18c 傷平-19c 初頭	J004
酒器	酒器45	5 T	青磁	磁器	青花枝	(12.5) (6.1)	3.5			内面：草文。外周：沿线に葉模様。蓋装：墨書きで斜折の小んご後。高台には輕く付着。	龍前	18c 傷平-19c 初頭	J005
酒器	酒器46	2 T	青磁	磁器	斜口角底	(27.2) (15.0)	5.5			内面：折目扇形(裏)、墨書き。底装：折目扇形。蓋装：墨書き。蓋内に點點状。	龍前	18c 傷平-19c 初頭	J006
酒器	酒器47	8 T	青磁	磁器	小堀	(1.2) (6.2)				内面：折目扇形・内面から外側になまこ脚。	龍前	18c 傷平-19c 初頭	J007
酒器	酒器48	10 T	青磁	磁器	青	6.0	6.0	2.0	(0.95)	外周：施釉(珠點)。	龍前	18c 傷平-19c 初頭	J008
酒器	酒器49	8 T	青磁	磁器	色絵斜口	(2.9) (1.9)	1.80			外周：斜口、淡絵(淡墨)。内面外周施釉(淡灰色灰火)。L寸部分に始なし。	龍前	18c 傷平-19c 初頭	J009
酒器	酒器50	8 T	青磁	磁器	斜口	3.7	3.9	2.75		内面：横筋の間隔が狭い口回り。2-3段の横筋。内面に斜口。外周：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c	J010
酒器	酒器51	8 T	青磁	磁器	斜口	3.7	3.9	2.75		内面：横筋の間隔が狭い口回り。2-3段の横筋。内面に斜口。外周：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c	J011
酒器	酒器52	6 T	N1-3層	磁器	青花枝	3.8	3.1			内面：横筋の間隔が狭い口回り。2-3段の横筋。内面に斜口。外周：斜口。蓋装：墨書き。	中国	18c-19c 初頭-後頭	J012
酒器	酒器53	3 T	S1-3層	磁器	青花枝	2.9	1.8			内面：口端部に横筋一束と斜口不規則。外周：口端部に無縫二束。	中国	18c-19c 初頭-後頭	J013
酒器	酒器54	7 T	青磁	磁器	斜口	(15.7) (1.9)				内面：(1.9)cm。外周：青磁。蓋装：白口青磁。	龍前	17c 創-18c 初頭	J014
酒器	酒器55	10 T	青磁	磁器	青花枝	(3.65) (2.6)				内面：見え込み圓窓に斜口。外周：文字文。蓋装：墨書き。	龍前	18c K-19c 初頭	J015
酒器	酒器56	5 T	N1-3層	磁器	斜口	(3.55) (1.25)				内面：横筋の間隔が狭い口回り。2-3段の横筋。内面に斜口。外周：斜口。	龍前	18c K-19c 初頭	J016
酒器	酒器57	2 T	青磁	磁器	斜口	4.7	3.2			内面：横筋の間隔が狭い口回り。2-3段の横筋。内面に斜口。外周：斜口。	龍前	18c 初頭	J017
酒器	酒器58	2 T	青磁	磁器	斜口	7.8	2.6			内面：横筋の間隔が狭い口回り。2-3段の横筋。内面に斜口。外周：斜口。	切込	19c 初頭	J018
酒器	酒器59	2 T	青磁	磁器	斜口	(6.75) (2.2)				内面：横筋の間隔が狭い口回り。2-3段の横筋。内面に斜口。外周：斜口。	中古	19c 中頃(茶末緋)	J019
酒器	酒器60	17 T	青磁	磁器	斜口	11.0	4.7			内面：略記。外周：絞目テナ。蓋装：墨書き。	在地	18c-19c 初頭-後頭	J020
酒器	酒器61	5 T	青磁	磁器	斜口	8.0	5.5			内面：絞目テナ。	在地	18c 初頭	J021
酒器	酒器62	8 T	青磁	磁器	斜口	9.0	8.0			内面：白化粧の萩口。内面外：褐色味ある灰地。	在地	18c 初頭	J022
酒器	酒器63	11 T	青磁	磁器	斜口	4.6	2.8			内面：斜口。外周：墨書き。	在地	18c 初頭	J023
酒器	酒器64	15 T	青磁	磁器	斜口	(15.0) (1.25)				内面：萩口。外周：墨書き。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J024
酒器	酒器65	9 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：萩口。外周：墨書き。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J025
酒器	酒器66	9 T	青磁	磁器	斜口	(6.5)				内面：萩口。外周：墨書き。	在地	18c 初頭	J026
酒器	酒器67	13 T	青磁	磁器	斜口	10.5	9.5			内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J027
酒器	酒器68	11 T	青磁	磁器	斜口	(10.5) (6.4)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J028
酒器	酒器69	8 T	青磁	磁器	斜口	(6.8) (4.6)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J029
酒器	酒器70	17 T	青磁	磁器	斜口	(6.0) (4.4)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J030
酒器	酒器71	5 T	青磁	磁器	斜口	(6.0) (4.3)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J031
酒器	酒器72	17 T	青磁	磁器	斜口	(11.5) (4.8)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J032
酒器	酒器73	17 T	青磁	磁器	斜口	(5.5) (3.9)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J033
酒器	酒器74	10 T	青磁	磁器	斜口	6.5	4.5			内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J034
酒器	酒器75	12 T	青磁	磁器	斜口	(11.0) (1.2)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J035
酒器	酒器76	5 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J036
酒器	酒器77	2 T	青磁	磁器	斜口	10.5	9.5			内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J037
酒器	酒器78	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J038
酒器	酒器79	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J039
酒器	酒器80	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J040
酒器	酒器81	2 T	青磁	磁器	斜口	10.5	9.5			内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J041
酒器	酒器82	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J042
酒器	酒器83	2 T	青磁	磁器	斜口	10.5	9.5			内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J043
酒器	酒器84	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J044
酒器	酒器85	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J045
酒器	酒器86	2 T	青磁	磁器	斜口	10.5	9.5			内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J046
酒器	酒器87	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J047
酒器	酒器88	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J048
酒器	酒器89	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J049
酒器	酒器90	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J050
酒器	酒器91	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J051
酒器	酒器92	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J052
酒器	酒器93	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J053
酒器	酒器94	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J054
酒器	酒器95	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J055
酒器	酒器96	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J056
酒器	酒器97	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J057
酒器	酒器98	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J058
酒器	酒器99	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J059
酒器	酒器100	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J060
酒器	酒器101	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J061
酒器	酒器102	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J062
酒器	酒器103	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J063
酒器	酒器104	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J064
酒器	酒器105	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J065
酒器	酒器106	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J066
酒器	酒器107	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J067
酒器	酒器108	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J068
酒器	酒器109	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J069
酒器	酒器110	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J070
酒器	酒器111	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J071
酒器	酒器112	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J072
酒器	酒器113	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J073
酒器	酒器114	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J074
酒器	酒器115	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J075
酒器	酒器116	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J076
酒器	酒器117	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J077
酒器	酒器118	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J078
酒器	酒器119	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J079
酒器	酒器120	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J080
酒器	酒器121	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J081
酒器	酒器122	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J082
酒器	酒器123	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J083
酒器	酒器124	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J084
酒器	酒器125	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J085
酒器	酒器126	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J086
酒器	酒器127	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J087
酒器	酒器128	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J088
酒器	酒器129	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J089
酒器	酒器130	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J090
酒器	酒器131	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J091
酒器	酒器132	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J092
酒器	酒器133	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J093
酒器	酒器134	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J094
酒器	酒器135	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J095
酒器	酒器136	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J096
酒器	酒器137	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J097
酒器	酒器138	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J098
酒器	酒器139	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.75)				内面：斜口。蓋装：墨書き。	在地	18c 初頭	J099
酒器	酒器140	17 T	青磁	磁器	斜口	(1.							

### 第Ⅲ章　まとめ

今回の発掘調査は、『仙台城下絵図』(寛文4年〔1664〕以下「寛文絵図」と略す)から幕末の『安政補正改革仙府絵図』(安政3～6年〔1856～1859〕; 第3図 以下「安政絵図」と略す)・『慶応元年仙台城下図屏風』(慶応元年〔1865〕以下「慶応絵図」と略す)までの各近世絵図・絵画類によると(仙台市史編さん委員会 1997、金森・佐藤ほか 2001等)、仙台藩の重臣伊達安房(亘理伊達氏)邸跡と推定される地区を対象とする確認調査であった。調査の性格上、限られた範囲での部分的な遺構調査となったものの、本屋敷跡推定地で行われた初めての考古学的調査であり、遺跡の基本層序と調査区域全体に近世相当層が遺存することを確認し、絵図・絵画資料に描かれた武家屋敷に関わると見られる遺構・遺物が検出できることは大きな成果であった。今回の調査対象区域に限れば、本遺跡の遺構残存状態は概ね良好と考えられる。以下に、今回の調査成果と問題点について述べてまとめたい。

まず、今回の調査によって基本層序としては現表土層から基礎礎層までをI～N層に区分することができた。この中で、近世相当と考えられるN層は近代以降の大規模な攪乱を受けていたが、近～現代に相当するII・III層直下の比較的浅いレベルから残存していた。特に8・11・15・16レンチの遺構検出状態を考慮すれば、調査区域内には良好な状態で近世遺構・整地層が存在する可能性が高い。ただし、N層上面については屋敷取り廻し後から明治8年(1875)の公園開園までの土地利用や公園整備、櫻岡大神宮遷宮、立町小学校建設時の削平・改変の影響を考える必要がある。

調査によって発見された遺構で最も注目されるのは、11レンチと16レンチから検出された屋敷の一部と考えられる礎石である。一般的に、礎石建物跡は礎石を持たない建物跡と比べ規模や構造、性格を異にする建物であったと考えられている。検出された2基の礎石間は約5.4mを測り、その間隔はほぼ3間となることから同一建物跡を構成する可能性がある(第17図)。しかも、今回の調査区域は約14,000㎡を測る三方を道路や神社の参道で囲まれた略長方形を呈した地割りとなるが(第1～3・5図)、礎石列の方位はN-75.5°-E、北辺に残されている旧立町小学校の隅はN-77.1°-Eを指し、3間の礎石列が地割りの北辺あるいは南辺とほぼ一致している(第5図A-A')。また、この地割りは『安政絵図』(第3図)や『寛文絵図』にまで遡る各近世絵図に描かれた伊達安房邸の屋敷地地割りともほぼ一致し、さらに現地形図と江戸中期の道を合成した図(仙台市史編さん委員会 2003: 574・575頁)からも現在の略長方形地割りが伊達安房邸屋敷地の地割りを概ね踏襲していることが読み取れる。従って、こうした略長方形地割りの一辺にはほぼ平行する3間の礎石列は、屋敷地の地割りに沿って建てられた同一建物跡の一部とも考えることが可能となる。そして出土遺物による時期決定や前述した明治期の削平も考慮しなければならないが、礎石の検出面はいずれもN層上面となっていることから、『文久二年仙台城下絵図』(文久2年〔1862〕以下「文久絵図」と略す)や『明治元年現状仙台城市之図』(明治元年〔1868〕以下「明治絵図」と略す)、「慶応絵図」の絵図に描かれた建物の一部であった可能性もある。これらの絵図・絵画資料に描かれた伊達安房邸には長方形屋敷地の形状に軸を合わせた建物群が見られることから、11・16レンチが位置する現グランド部に母屋と考えられる大型建物が存在していた可能性が考えられる。

また、8レンチより検出されたSD1も上述の地割りの一辺にはほぼ平行する溝状遺構となっている。遺構軸はN-14.5°-Wを指し、その延長上が礎石列A-A' と90.4°の角度で交わる(第5図B-B'・第17図左上)。このように、SD1は礎石列と同様に屋敷地の区画に沿って構築された遺構の可能性が高く、断面形が垂直に立ち上がるのことや堆積土中層に拳大～人頭大弱の円礎が多量に確認されたことを考慮すると、布堀の建物基礎であった可能性がある。

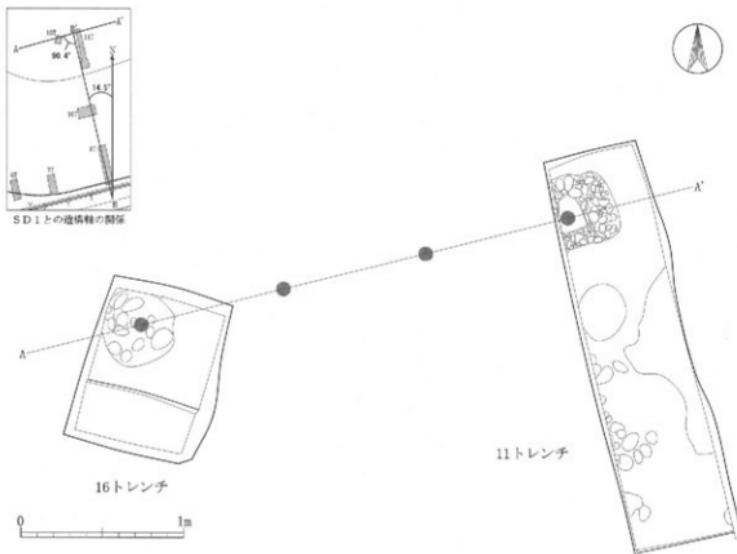
一方、15レンチでは遺構のプランが確認され、その一部を掘り下げたが底面の検出までは至らなかった。しかし、その堆積土中からは黄色粘土質シルト主体の整地層と考えられる土層が確認された。また、4・6～8・9・

10・17トレーニチでも黄色粘土質シルトのブロックや版築状の層が観察されたが、これも15トレーニチの黄色粘土質シルト主体層と同様な整地層の一部と考えられる。のことから、これらの調査区は15トレーニチで検出されたようなプラン・整地内に設定された可能性もある。

次に出土遺物については、最も多く検出されたものは棧瓦を主体とする瓦類であった（第2表）。その中で13トレーニチからは伊達氏の家紋の一つとなる三ツ引両の軒丸瓦片1点が出土し、1トレーニチからは鬼瓦と考えられる小片1点が出土している。

調査当初、棧瓦は出土層位が近代以降で、戦災前の旧立町小学校が木造二階建て瓦葺き校舎だったことを写真資料から確認できることもあり（渡辺監修 2001、渡邊・佐藤 2006、仙台市歴史民俗資料館 2007）、近世遺物との認識が無かったものである。しかし、著しい攢乱が見られたものの、近世に遡る可能性を残す17トレーニチSK1からも大量の棧瓦が出土し、これらの瓦当文様や形式から近世瓦が含まれていることが判明した。また、これらの瓦には同範瓦や布目の圧痕を持つ丸瓦も見られ、一方で同范関係の判定基準となった木目痕の状態からはかなり使い込まれた範による製作状況も窺われた。これらのことから、今後の出土例が増えれば同範瓦間の製作時期差も抽出できるかもしれない。なお、軒棧瓦は仙台市域で発掘例が少ない江戸式が主体となり、東海式1点も含まれていた（金子 2000・2007）。また、「文久絵図」や「慶応絵図」、「明治絵図」によると、瓦葺きは伊達安房邸だけではなく周辺の武家屋敷においても門と屋に描かれるのみで、母屋をはじめとする建物には認められない（千葉 1997）ことなどから、無文瓦当の軒棧瓦についても焼成や胎土・作出状態が他の軒棧瓦と共通することから報告することとした。家紋瓦や鬼瓦は門、棧瓦は扉に使われた可能性もあるだろう。

なお、本遺跡出土近代遺物の多くは仙台空襲に関連するが、これらの評価・活用も今後の期待としたい。



第17図 11・16トレーニチの礎石間隔

## 註

- (1) 写真1の遺跡遠景写真は発行年、発行所不明の絵はがき『仙臺市街全景』(中山農所蔵)の一部を転載・加筆したものである。同様な構図(撮影場所は仙台城)の絵はがきは多く制作されたようで、現在刊行されている古い絵はがき写真集の中にも3種類ほど確認できるが、転載の絵はがきとは別写真であった(渡邊・佐藤2006・仙台市歴史民俗資料館2007)。年代は昭和10年頃とされ、転載した写真もこれまで知られている絵はがきと同時期のものとなっている。写真には昭和8年完成の青藤報恩館と昭和13年に取り壇された鉄橋の大橋が写っていることから、この写真は1933~1938年の間に撮影されたものと判断される。また、仙台市戦災復興記念館と仙台市歴史民俗資料館にもこれと同一の絵はがきは収蔵されていず、発行年や発行所を確認することができなかった。歴史民俗博物館学芸員の佐藤雅也氏によれば、この絵はがきは昭和10年頃のもので間違いなく、当時仙台市内の小さな会社・印刷所で多く作られていたものの一つで現在は版権がどこにもないことから、原本の転載であれば所蔵者名を明記しておけば問題はないとのご教示をいただいた。記して感謝の意を表す次第である。
- (2)『地番入仙臺市全國大正十五年度最新版』は大正15年(1926)5月5日発行・同年12月20日再版発行(中山農所蔵)の一部を転載・加筆したものである。
- (3)『安政補正改革仙府絵図』は今野印刷1994『絵図・地図で見る仙台』の一部を転載・加筆したものである。

## 引用・参考文献

- 金森安孝・佐藤 洋ほか 2001 『特別展図録 仙台城~しろ、まち、ひと』仙台市博物館  
金子 智 2000 「瓦から見た江戸と国元」『江戸遺跡研究会第13回大会 江戸と国元[発表要旨]』江戸遺跡研究会  
金子 智 2007 「江戸の瓦」『考古学ジャーナル』No.553 ニュー・サイエンス社  
川名源十郎 1926 『地番入仙臺市全國大正十五年度最新版』川名文明堂  
今野印刷 1994 『絵図・地図で見る仙台』  
斎野裕彦・森谷正信・北原正道 2005 『仙台市文化財調査報告書第289集 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(Ⅰ)概要報告書』仙台市教育委員会  
佐藤 洋 2002 「仙台市内出土の陶磁器集成~近世~」『仙台市博物館調査研究報告』第22号 仙台市博物館  
佐藤 洋 2004 「陶磁器の流通と消費」『仙台市史 通史編5 近世3』仙台市  
仙台市史編纂委員会編 1975 『増補改訂版 日で見る仙台の歴史』宝文堂  
仙台市史編さん委員会 1997 『仙台市史 資料編3 近世2 城下町別冊』仙台市  
仙台市史編さん委員会 2001 『仙台市史 通史編3 近世1』仙台市  
仙台市史編さん委員会 2003 『仙台市史 通史編4 近世2』仙台市  
仙台市史編さん委員会 2004 『仙台市史 通史編5 近世3』仙台市  
仙台「市民の手で作る戦災の記録」の会編 1973 『仙台空襲』宝文堂  
仙台「市民の手でつくる戦災の記録」の会・「仙台はフェニックス」編集委員会編1995 『仙台はフェニックス~戦中戦後の証言と開闢集~』宝文堂  
仙台市歴史民俗資料館 2005 『仙台市歴史民俗資料館資料集第3冊』仙台市教育委員会  
仙台市歴史民俗資料館 2007 『仙台市歴史民俗資料館資料集第5冊』仙台市教育委員会  
千葉正樹 2003 『仙台の原景観と城下町計画』『仙台市史 通史編4 近世2』仙台市  
吉岡一男ほか 1989 『仙台市百年のあゆみ』仙台市  
渡邊慎也編 2006 『仙臺文化』第4号『仙臺文化』編集室  
渡邊慎也・佐藤正実 2006 『絵はがきで繰る大正・昭和前期の仙臺』風の時編集部  
渡辺信夫監修 2001 『目で見る 仙台の100年』郷土出版社  
亘理町郷土資料館 2002 『伊達成実』  
亘理町史編纂委員会 1990 『亘理小史』宮城県亘理郡亘理町  
『仙臺市街全景』(絵はがき)

# 図 版





1. 公園西側近景（東から）



2. グラウンド部南側近景（北東から）



3. グラウンド部北側近景（南東から）



4. 1トレンチ全景（南西から）



5. 2トレンチ全景（南東から）



6. 3トレンチ全景（南西から）



7. 4トレンチ全景（北西から）



8. 5トレンチ全景（北東から）

図版1



1. 6 トレンチ全景（北東から）



2. 7 トレンチ全景（南東から）



3. 8 トレンチ全景（南東から）



4. 8 トレンチ北側SD I 全景（北西から）



5. 8 トレンチ東壁遺物出土状態（南西から）



6. 9 トレンチ全景（北西から）



7. 10 トレンチ全景（北東から）

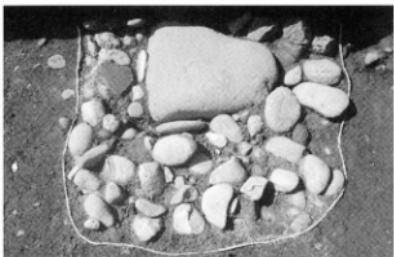


8. 11 トレンチ全景（北西から）

図版2



1. 11トレンチ北側全景（北東から）



2. 11トレンチ鹿石（P1）検出状態（北東から）



3. 12トレンチ全景（南東から）



4. 13トレンチ全景（南東から）



5. 14トレンチ全景（南西から）



6. 15トレンチ全景（北西から）



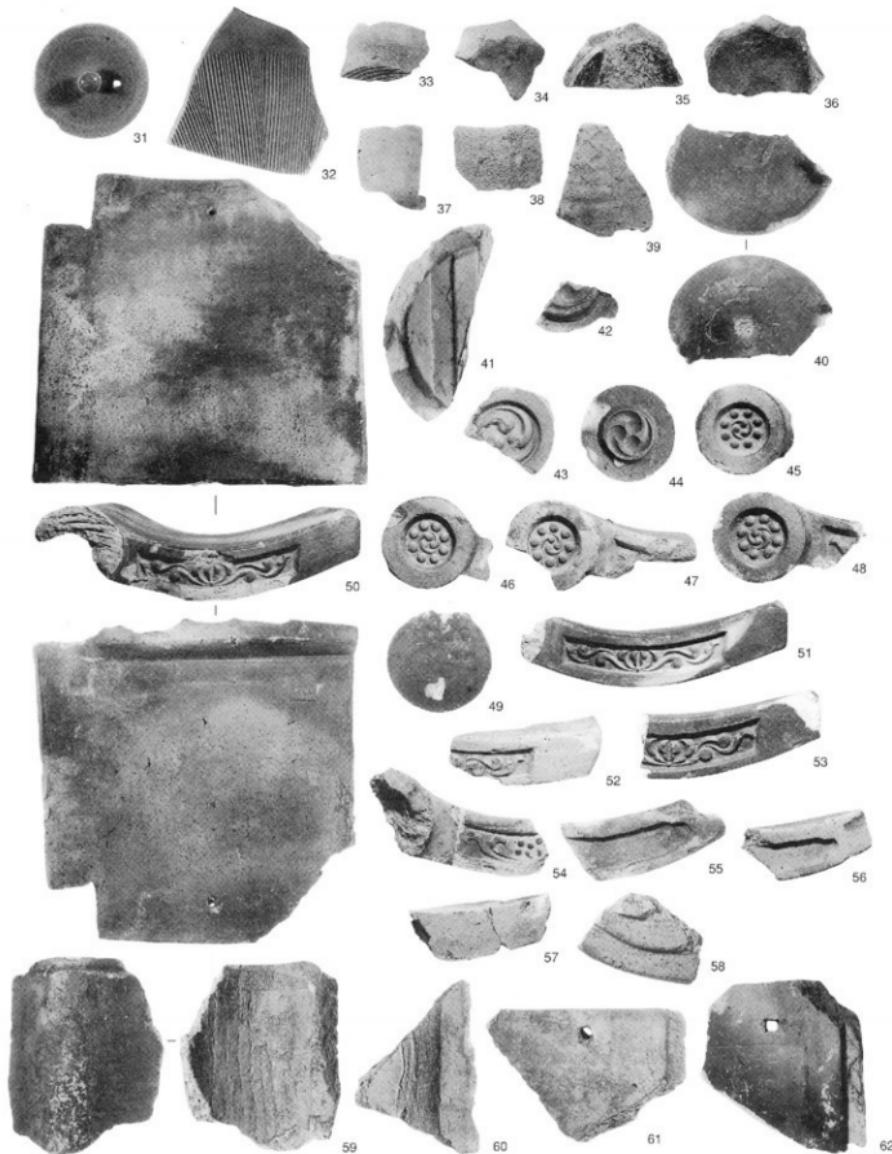
7. 16トレンチ全景（北東から）



8. 17トレンチ全景（北西から）



図版4 出土遺物(1)



图版5 出土造物(2)

## 報告書抄録

ふりがな	さくらがおかえんいせき							
書名	桜ヶ岡公園遺跡							
副書名	第2次調査報告書							
番次								
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第318集							
編著者名	廣瀬真理子・中山 翌							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8761 宮城県仙台市青葉区国分町3丁目7番1号 TEL 022-214-8894							
発行年月日	2007年12月27日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
桜ヶ岡公園遺跡	宮城県仙台市 青葉区桜ヶ岡 公園地内	市町村 04100	遺跡番号 01562	38° 15° 36°	140° 51° 45°	2007.08.20 2007.09.27	165m <sup>2</sup>	西公園再整備事業に伴う埋蔵文化財の確認調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
桜ヶ岡公園遺跡	武家居敷	近世	礎石建物跡 溝状遺構 整地跡	陶器、磁器、土師質土器、 瓦質土器、瓦類、金属製品				

### 仙台市文化財調査報告書第318集

### 桜ヶ岡公園遺跡

- 第2次調査報告書 -

平成19年12月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区国分町3丁目7番1号

仙台市教育委員会文化財課

TEL 022-214-8894

印刷 平電子印刷所

福島県いわき市平北白土字西ノ内13番地

TEL 0246-23-9051

